

宮崎発夢未来～美しい郷土を子どもたちに

みやざき中央新聞

The Miyazaki Central Journal

みやざき中央新聞 2007年7月2日
掲載記事 社員教育研究室



株式会社 オフィス・キャリアデザイン 代表取締役
キャリアカウンセラー

坂巻 美和子

したいのか、どういう力を身につけよう
としているのかという「自己理解」です。



「環境の理解」でまず準備されるのは
「情報化」でしょう。

近年のIT化、インターネットの普及
はすごいです。これから仕事を探すので
あれば、パソコンを全然知らないとい
いはず、パソコン教室に行かれたりして
勉強しておく必要があります。

次なるキーワードは「少子高齢化」「高
齢化社会」と「高齢社会の違い」に分か

剛上がりの後のぬかるみを轆馬車が
走ると、その後にはわだちが残りま
す。車
だつたらタイヤの跡が残るでしょ
う。
つらなつたそのタイヤの跡を「キャ
リア」と
言います。つまりキャリアとは「生
きて
きた道すじ」です。
だから、「自治会の役員でイベントを
やった」というのもキャリアだし、「子
育てしながら児童会の会長をやった
」
というのも立派なキャリアです。
私たちに、「将来、こんなふうにな
りたい」という目標があるでしょう。
そ
して現在がある。その将来の目標に向
か
つて、どうやって自分をプランニン
グ
していくか、それを「キャリアデザ
イ
ン」といいます。
そのためにまずやらなければならな
い
こと、それは「現状」を知ることです。
そ
のために、自分にいくつかのアプロ
ー
チをかけていかなければなりません。
そ
のアプローチの一つが、「環境の理解
」
です。
もう一つは、自分はどのような仕事

人生は二毛作 できる時代 になりました

りますか？ 世界共通の定義があるん
です。65歳以上が、その国の人口の7%
に到達すると、その国は「高齢化社会」と
呼びます。人口の14%に到達すると「高
齢社会」、そして人口の21%に到達する
と「超高齢社会」になります。
平成18年の発表によると、日本の高齢
化率は20.7%でした。つまり日本は今
「高齢社会」で、あともう少しすると「超
高齢社会」になるところまで来ていると
いうことです。

日本が高齢化社会になったのは19
70年で、1994年から高齢社会にな

りました。その24年という期間の短さが、
日本社会のいろんな分野で重みを生み
出していきます。たとえば、ドイツは40年
かけて高齢化社会から高齢社会になり
ました。イギリスは76年、スウェーデン
は85年、フランスは127年かかりまし
た。



ライフサイクルも変化しました。一般
的に社会に出ていくのは18歳とか22歳
くらいです。その社会に出た年齢か
ら26、7歳までの期間が、一つの期間と



いくつになっても 働く、学ぶ、遊ぶ 3つのバランス

から「維持期」と呼ばれます。

でもこれは、一言前なら「維持」で良かったのですが、現代は平均寿命が85歳くらいになりました。だから「維持」だけではどうもいけないような気がするんですね。もう一回自分のキャリア、人生を、どうデザインしていくかを再構築して考えていく必要があると思うんです。

つまり昔は「二毛作で終わり」でした。でも今は、「二毛作ができる」時代です。どうせだったら、2回とも花を咲かせたいですね。そのために何をやるかを考えるってことです。



私も「二毛作したい」と思い、58歳の時に、法政大学のキャリアデザイン学部に入學しました。学生が300人、社会人学生は約20人いました。

今年3月に卒業したのですが、私、首席総代だったんです。「この歳でも、やればできるんだ」と思いました。

卒業式は武道館で行われました。「キャリアデザイン学部、総代、坂巻美和子！」って呼ばれて、壇上が上がっていきました。

私は今、そのまま上に進み、社会人大学院に夜学生として通い、修士の勉強を続けています。

これまでは、学校を出るまでが「学ぶ」で、60までが「働く」で、60過ぎからは「余暇する」でした。でもこ

れからは、何歳になっても働く「学ぶ」「遊ぶ」という、この3つのバランスを取っていく時代になっていきます。だから、60からでも何かを始められるんです。

私がとても前向きになれた、先輩の一言があります。私はずっとそれまで、「今、私は人生の最終コーナーを走ってるんだわ」と思い込んでいました。でも80歳の先輩2人に、「人生の中で一番いい仕事ができしたのは60代だったと言われたんですね。その言葉をきっかけに、そうか、60代でもいい人生の演出はできるんだな」と思って、私はもうちょっと馬力をかけながら時間を積み重ねていこうと思うようになりました。

（5月17日、21世紀職業財団が主催した「再就職準備セミナー」から）

「さかまき・みわこ大和證券、三菱重工、住友不動産、マネージメントサービスセンターを経て、1985年独立。社員教育研究室を主宰。年間100日のセミナー、講演などを担当する。法政大学キャリアデザイン学部第一期生。文京学院大学生涯学習センター講師。

して区切られると思います。この期間は、この仕事って、本当に自分に合っているのか、他にもっと適切な仕事があるんじゃないか」と、多くの人が葛藤・模索しています。ですからこれを「模索期」と呼びます。

次に区切られるのは35、6歳までの期間です。この期間は、人生の中でも特に選択することが多い期間です。「結婚をどうするか」「子どもは何人産もうか」「持ち家にしようか賃貸にしようか」等等。ですからこの期間を「選択期」と呼びます。

そして、次に区切られるのが40、7歳まで。この期間は、子育てとか介護とか、いろんなものをチャイロスした後、それに没頭し、それを確立していく期間です。ですから「確立期」と呼びます。

その後60歳までは、その確立したものを維持していく期間だと言われます。だ

西田書店

**道草して
キャリアデザイン**

坂巻美和子著

過去は変えられない



「私は大企業で働いてきたので、キャリアアップは、それこそ自分なりに頑張らなければなりません。でも、キャリアアップは、それこそ自分なりに頑張らなければなりません。でも、キャリアアップは、それこそ自分なりに頑張らなければなりません。」

発行所 東京都千代田区神田神保町2-25山本ビル
Tel 03-3261-6260 Fax 03-3263-0910 西田書店